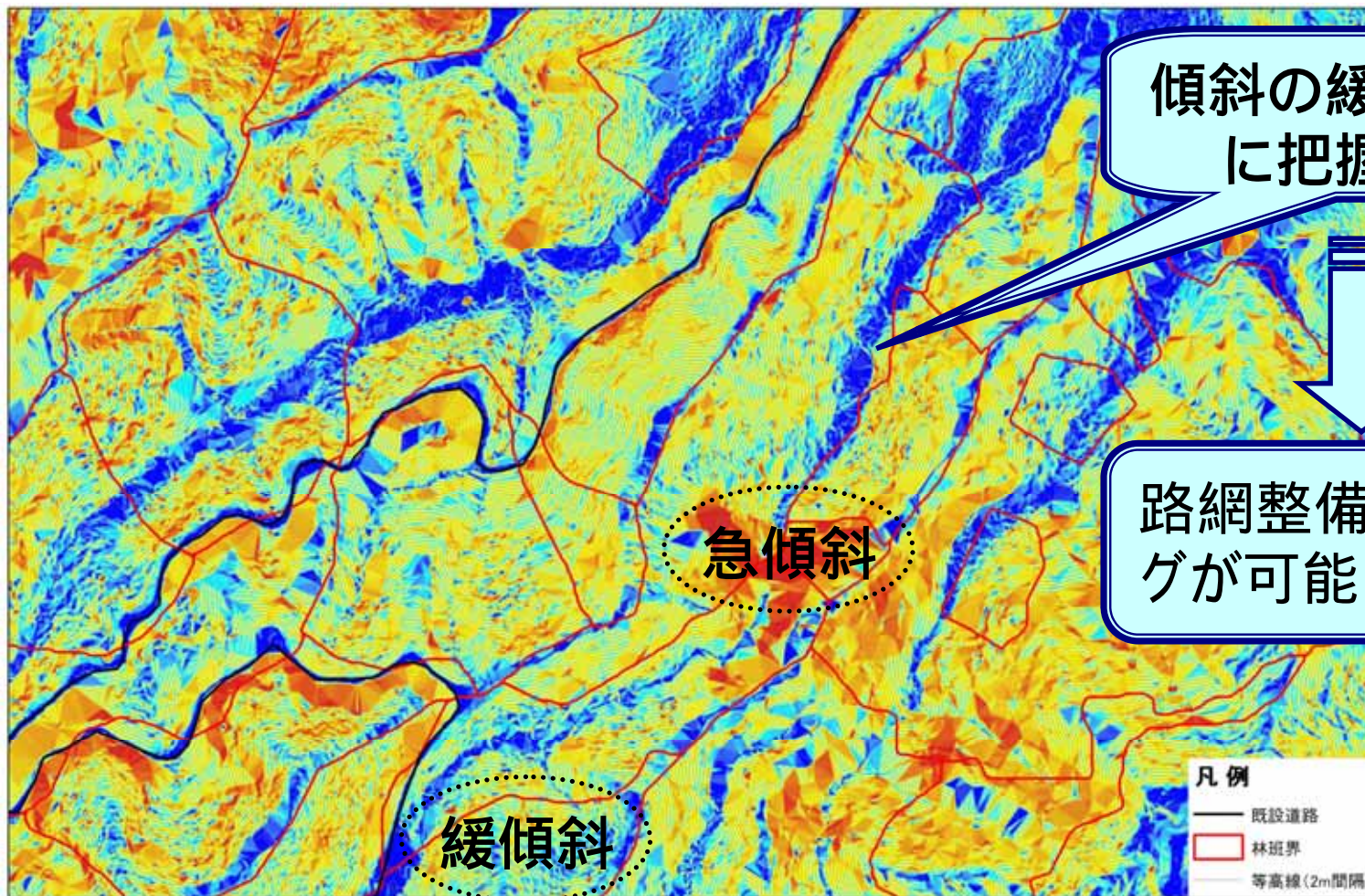


可視画像，精密地形情報の有用性 (路網整備)



傾斜の緩急が詳細に把握できる

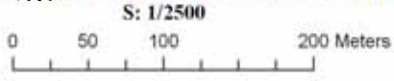
路網整備のゾーニングが可能に

急傾斜

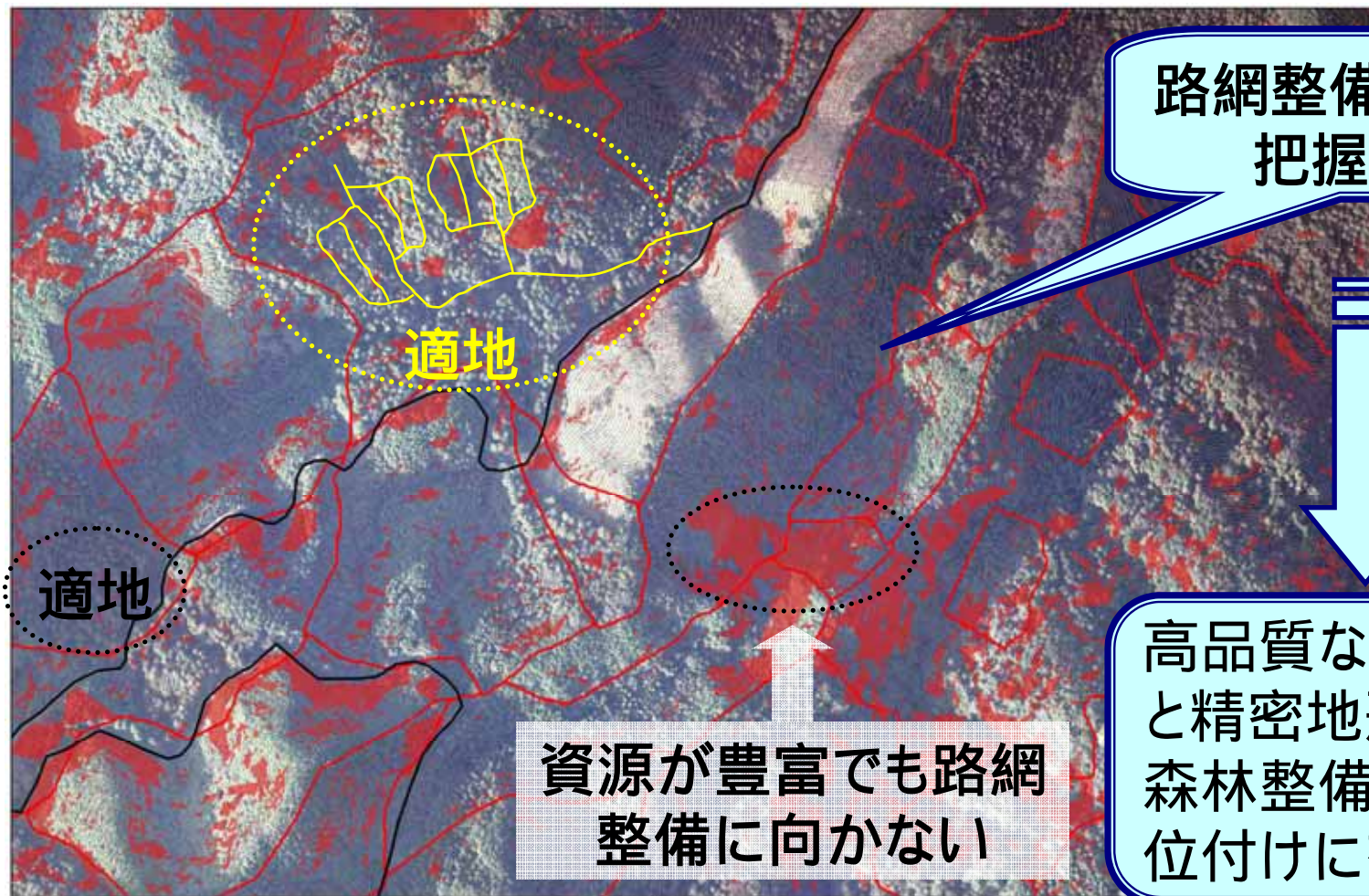
緩傾斜



傾斜量



可視画像，精密地形情報の有用性 (路網整備)



路網整備の適地が把握できる

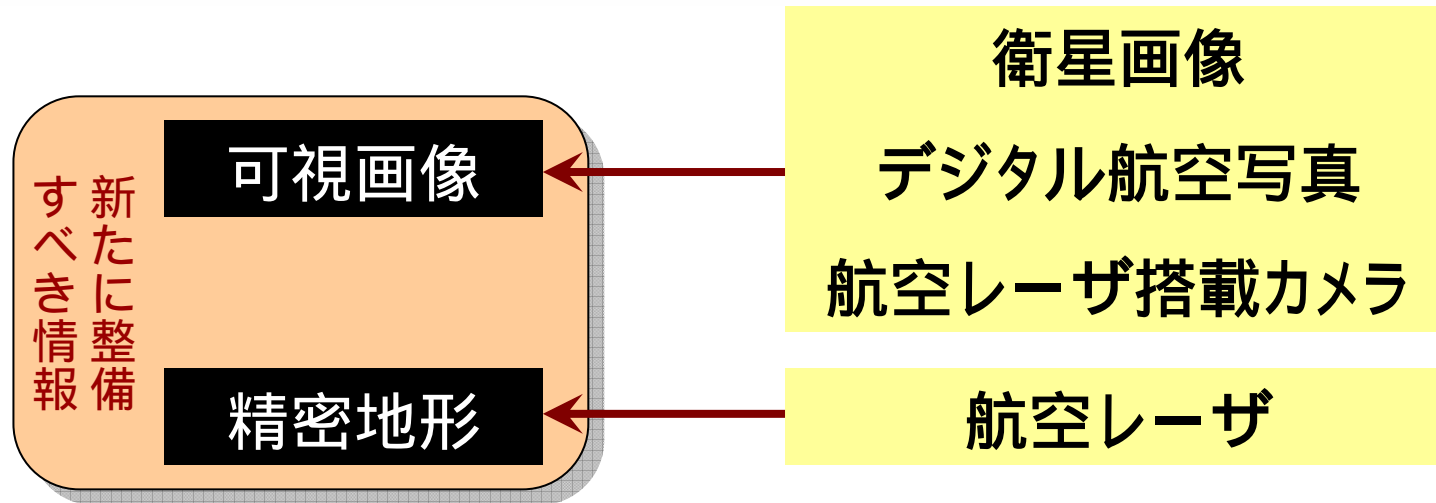
高品質な可視画像と精密地形情報は森林整備の優先順位付けに有効



可視画像 + 急傾斜地

S: 1/2500
0 50 100 200 Meters

戦略的森林基盤情報整備の課題



整備費用が高価な点が最大の課題

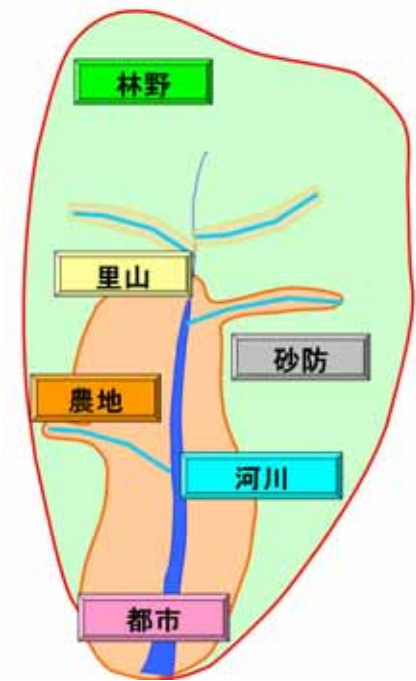
例) 航空レーザ

■現状: 4万円/km²

■整備が必要なエリアを25万km²と仮定すると**100億円**

課題をクリアするための提案

- 基盤情報は情報インフラである
 - ◆ 水資源管理, カーボン・オフセット等への利用など, 波及効果も見込める。
- アイデア次第でコストの低減は可能
 - ◆ 整備済みデータの相互利用
 - ⊕ 河川, 砂防, 農業, 海岸等の事業で整備済みの画像データ, 航空レーザデータを活用する。
 - ◆ 受益者負担
 - ⊕ 森林域の情報整備は, 多くの機関(林野, 環境, 河川, 砂防, 都市, 農業, 自治体など)に恩恵をもたらす
 - ⊕ 恩恵を受ける機関でコストをシェアする仕組み
 - ◆ メンテナンスの工夫(CALSの概念)
 - ⊕ 地形情報は原則更新不要。可視画像は衛星画像で変化箇所のみ更新
 - ⊕ 整備後は, 個別事業のデータを組み込むことでメンテナンスコストを削減
 - ◆ 単価縮減のための工夫
 - ⊕ 大きなロットでの契約で共通経費を圧縮
 - ⊕ 業者の自主努力



相互利用の可能性

■ 画像データ

◆ 国土交通省

✦ 国土地理院：平野部を中心に**約19万km²**を整備予定

◆ 農林水産省

✦ 農村振興局：農地**約4.7万km²**を整備予定

■ 航空レーザデータ

◆ 国土交通省

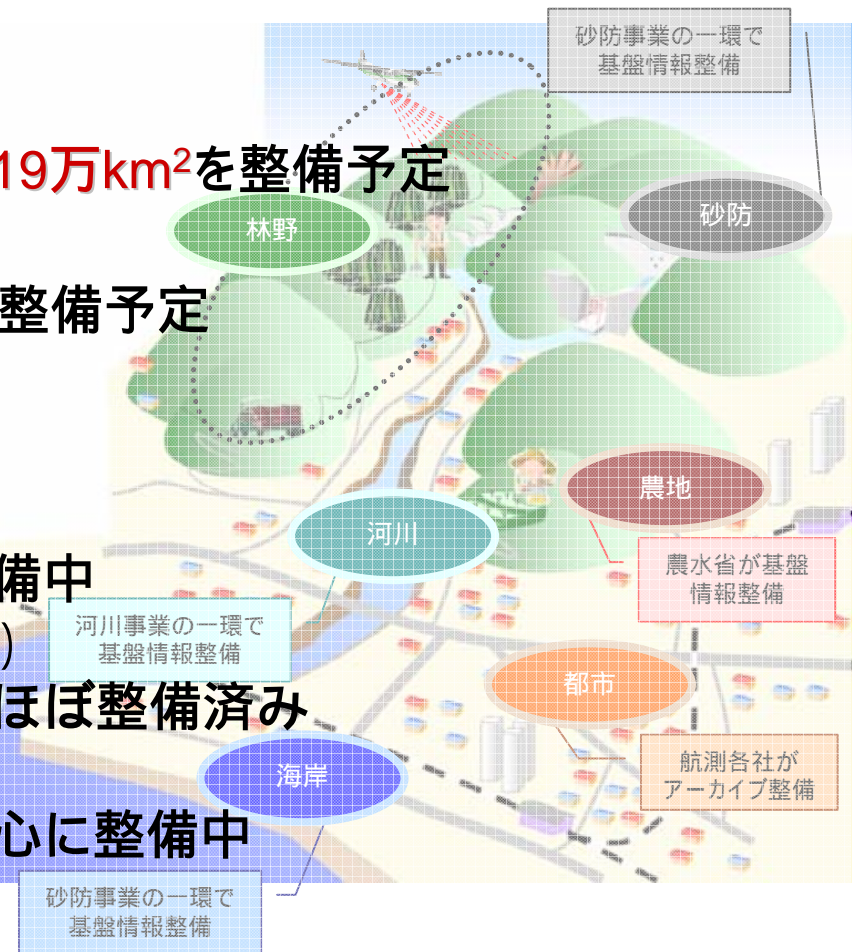
✦ 国土地理院：都市部を中心に整備中
(**推定約1.2万km²**)

✦ 河川事業：直轄河川氾濫域をほぼ整備済み
(**推定約9万km²**)

✦ 砂防事業：直轄砂防区域を中心に整備中
(**推定約2万km²**)

◆ 航測各社アーカイブ

✦ 都市部を中心に**約5.5万km²**を整備済み



まとめ

- 森林計画図(基本図), 航空写真, 森林GISは, 単体のみでは**品質に課題**がみられ, 戦略的なベースマップとしての使用が困難。
- 林地境界確定, 路網整備を効率的に進めるためには, 森林資源としての価値を判断し, **事業の優先度を評価**できる戦略マップが必要。
- 戦略マップとしては, **高品質な可視画像, 航空レーザに基づく精密な地形情報**が有効。
 - ➡ **戦略的森林基盤情報整備を提案**
- 基盤情報の整備における課題と対応。
 - ◆ **整備済みデータの相互利用**
 - ◆ **受益者負担**
 - ◆ **CALSの概念**
 - ◆ **単価縮減**